

創刊号

- 日本アッセンブリーズ・オブ・ゴッド教団 広報的機関誌 -

つむぐ Tsumugu



No. 01

Aug 2026

「祈りを燃やせ」

全国聖会特集 / 教会紹介

ナッシュビル(アメリカ) ツアーレポ

Tsumugu 劇場 / 断食の恵み



EDITOR'S NOTE

編集責任者より読者の皆様へ

ハレルヤ！

教団の広報的機関誌である『Tsumugu-つむぐ-』を手にとっていただき、ありがとうございます。

2025年12月号をもって、惜しまれつつ終刊となった『月刊アッセンブリー誌』に代わる機関誌が、名前も装い新たに『Tsumugu-つむぐ-』として創刊されることになりました。今年度は、この創刊号のみの発行となりますが、来年度以降は年4回の発行を予定しています。「つむぐ」という名前にあるように、神様がこれまで紡いでこられた恵みに感謝し、私たちもまた、その歩みを受け継ぎ、紡いでいく者として用いられたいと願っています。

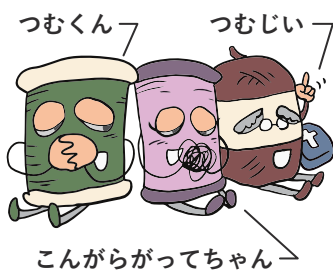
これまで『月刊アッセンブリー誌』やさまざまな教団の読み物を通して伝えられてきた教団や諸教会のあゆみ、信仰の養いとなるコラムなどを、より読みやすい形で、幅広い世代の皆さまにお届けできれば幸いです。個性豊かな編集チームが心を込めて制作してまいります（最終ページにメンバー紹介も掲載しております）。

読者の皆さまともコミュニケーションを取りながらより良い誌面を作り上げていきたいと願っております。「こんなコーナーを作って欲しい。」などのご意見・アイデアもぜひお寄せください。この誌面を通して皆さまの日々の信仰生活に寄り添い、成長の助けとなることをお祈りしています。



編集責任者 広報室機関誌チーム長
神山 美由記

ともにつむぐ仲間たち



つむくん：緑のミシン糸から生まれた、好奇心いっぱいのキャラクター。素直で一生懸命、時にはちょっぴりコミカルな姿で、読者のみなさんの素直な疑問や思いを代わりに届けます。

こんがらがってちゃん：ピンク色のミシン糸から生まれた、悩み多きキャラクター。「どうしたらいいの？」と迷い、こんがらがりながらも、神様と共に答えを見つけていく仲間です。

つむじい：聖書を抱えた、赤茶色の毛糸のおじいちゃん。神様のことばを通して、歩む道を優しく示してくれます。一緒に悩み、一緒に考え、そっと背中を押してくれる頼れる存在です。

今後のご案内

2027年発行スケジュール *変更となる場合があります

年4回：1月、4月、7月、10月

紙版：一部 150 円（送料込み）

PDF 版：一部 50 円 / 人

（PDFは一人一部の購入をお願いします。回覧でのご利用はご遠慮ください。）

申込みや購入方法などの詳細は後日、別途ご案内いたします。

見どころ満載！1月号予告

*内容は変更となる場合があります

- ・理事長が語る、2027年 教団のビジョン
- ・新年特集！！
 - －教会訪問 全国の教会の新年の取り組みをご紹介します！
 - －Tsumugu 劇場 今年こそ続けたい！聖書通読&デバーション
- ・Youth 特集
 - －NEXT GEN のリーダーたちが本音で語る「恋愛」座談会！

第43回 全国聖会 特集

MM33 ナショナル カンファレンス National Conference

5月4日から6日にかけて開催された全国聖会。全国から多くの方々が集い、世代を超えて主を礼拝する恵みの時となりました。

本特集では、各集会の様子や舞台裏、講師の先生方のメッセージなどをレポートします。

こども聖会レポ



ジーザス・ファミリー・チャーチ
西村 希望師

ラブ・イズ
アクション!

「D ランドがライバル! ミッキーが『イエス様信じる?』って聞いたら、もう信じるよね〜」(一同笑い)。そして、「次世代のリバイバルが日本のリバイバル!」^{のぞみ}と言い放つ西村 希望先生。セミナーでは、「次世代の献身者を育てる教会」というビジョン開拓から 40 年余り続いている働きを紹介。「あなたにもできることがある。何か次世代のビジョンを持ち帰って!」と呼びかけた。



子ども達と
何度もハグ!



毎回お客さんが登場!
ジェスチャーじゃんけん



こども聖会は、賛美とゲームを交互にノンストップ。ユースたちがゲームをリードして盛り上げる。子ども達は体を動かして歌って踊って、超分かりやすいメッセージを聞く。ついていけない子もユースたちが優しくフォロー。とても行き届いた働きだ。自分の賜物を生かして生き生きと輝くユースたちの存在が大きく感じられた。

マルコ 10:14 で子どもを止めてはいけない! とブチ切れたイエス様。今、子どもたちがさえがられている現実^に怒ろう! 心に刻んでほしい! 子ども達をイエス様のもとに連れて行こう! 西村先生のメッセージが心に残っている。

(取材・文:田中 清人)

豚メンブラザーズ!
トンコツじゃんけんは爆笑もの。
ユースは部活ではなく、
教活(教会活動)に打ち込んでいる。



次世代のリバイバルは、
日本のリバイバル

ここに集うすべての方が ……

NEXT GEN

……

全国聖会 2 日目の晩に開催された NEXT GEN NIGHT (青年聖会) は幼い子どもから高齢者まで 800 名以上の方々が世代を超えて集い、共に礼拝する素晴らしい時となりました。

ワーシップバンドやクワイアは、この集会のためにあらゆる教区・教会から選抜されたユースによって結成され、初めて会った兄姉と息を合わせながら一致して賛美を捧げる姿に感動！またワーシップダンスのスペシャル賛美や楽しいゲームで会場は大盛り上がり！神山 茂紀師のメッセージでは「ここに集うすべての方が次世代 (NEXT GEN) です！」と冒頭で語られていたことが印象的でした。元ユース世代にとっては「自分たちの時代はこうじゃなかったのに」と否定的に次世代を見ていた自身の姿を悔い改めさせられ、彼らに信仰者としての背中をしっかりと見せていこうと御言葉を通して励まされました。同時に、ユース自身にとっても、状況にかかわらず、絶えず主を見上げ、詩篇



145 篇にあるように「あなたの御名を世々限りなく賛美します」とそれぞれが礼拝者として、これからも歩んでいくことを宣言し、恵みを受け取った最高の夜でした。参加者からは、「霊的な潮目が変わったことを感じた」、「教会のユースがこの集会をきっかけに教会の奉仕に携わりたいと意欲を持つようになった」、「改めてペンテコステ教会の恵みを実感した。普段の礼拝でももっと異言で祈りたい」、「聖霊が豊かに臨まれて、世代を超えて一体感を感じることができた」「全国聖会が終わってからも教会全体が燃やされて、毎週受霊する人が起こされる、素晴らしい礼拝が捧げられている」といったうれしい感想が寄せられました。

(取材・文：神山 美由記)



特別講師

ドミニク・ヨウ師インタビュー！！

講師のドミニク師へのインタビューでは、今回の全国聖会を「チャンスの時」と表現されました。

普段は食事に 2 時間ほどかけることもあるという先生。聖会期間中も、実行委員会が用意した夕食をゆっくり楽

しむことができたそうです。日本食が大好きで、日本を訪れるたびにさまざまな料理に挑戦されているとも語ってくださいました。

また、ご自身へのご褒美は「買い物、睡眠、食事」とのこと。読者へのメッセージとして、「よく食べ、よく眠り、よく遊ぶこと」、そして今回の聖会の動画をぜひ見てほしいと勧めてくださいました。

舞台裏日誌

5月3日(日)
午後3時

関東近郊の先生方、信徒ボランティア、神学生が集まり、機材搬入と会場設営を行いました。作業は午後9時30分まで続けました。



祈りをもって
始めます

5月4日(月)
午前9時

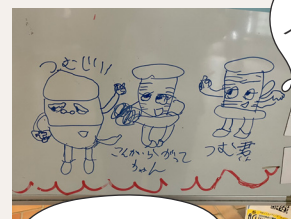
祈りをもってスタート。
メイン会場ではリハーサル、裏ではパンフレットなどの袋詰め作業が進められました。
受付、会場案内、荷物預かりなど、それぞれの持ち場で来場者をサポート。
広い会場内では、会場係が各所で案内を行い、
メイン会場はインカムで席状況を確認しながら誘導しました。



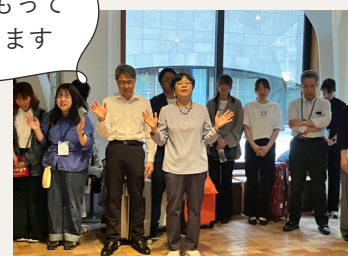
モニターで
聖会の様子を
見守ります



かわいい
イラストを発見！



祈りをもって
終わります



5月6日(水)
午後1時

聖会が続く中、裏側では撤収作業も同時に進行。



午後5時40分

すべての作業を終えました。
お疲れさまでした。

(取材・文：坂田 容子)

先生の好きな聖句は、エレミヤ書 29 章 11 節。「わたし自身、あなたがたのために立てている計画をよく知っている——主のことば——。それはわざわいではなく平安を与える計画であり、あなたがたに将来と希望を与えるためのものだ」(エレミヤ書 29:11 新改訳 2017)。

“将来と希望”を与えてくださる神様の計画に信頼し、忠実に歩み続ける先生の姿勢から、多くの励ましを受けるインタビューとなりました。

(取材・文：本田 基枝)



世界アッセンブリーフェロシップ議長
シンガポールアッセンブリー理事長
ドミニク・ヨウ師



・断食祈祷の恵み・

Tsumugu 劇場



祈りの時間を、もっと豊かに。
断食祈祷のお勧めと恵みを分かち合っていました。



断食の目的



北見神愛キリスト教会 / 紋別神召基督教会
日本リバイバル浜名湖祈祷団 世話役

日吉 成人

「断食」と検索すると、「ファスティング」という健康法が紹介されています。一定期間食べないことで胃腸を休ませ、心身のデトックスやダイエットを促すことを目的にしているようです。全国には多くの断食リトリート施設があり、「空っぽにする」「手放す」「満ちる」という言葉には、どこか断食祈祷にも通じるものを感じます。

もちろん、断食祈祷は絶食そのものが目的ではありません。修行や我慢大会でもなく、ハンガーストライキのように、自分の要求や抗議の意思を示すことでも、パリサイ人のように自分の敬虔さを示すためのものでもありません。断食祈祷とは、握りしめているものを手放し、空っぽになった心に神様の思いを満たしていただく時です。食事を控えることで、いつも以上に神様に心を向けるための時間を持つことなのです。食事の時間も手間も食欲も主にささげながら、いつも以上に主と親しく交わることで、それが断食祈祷の目的です。私自身、本当は美味しく食べて元気に祈ることが好きなのですが、断食して祈ることを通して、多くの恵みを受け取っています。

01 神様との関係が深まる

願い事をかなえていただくということ以上に、主なる神の偉大さを知り、愛に包まれます。

02 心が探られる

自分の弱さや罪、執着に気づき、悔い改めへ導かれていきます。

03 とりなして祈る

家族、教会、地域のために祈る中で、他者への愛がさらに増し加えられていきます。

04 導きと力が与えられる

御言葉が示され、主の導きに従う聖霊の力に満たされます。

05 リバイバルへの飢え渴きが起こる

空っぽになった心に、神様の御業を求める思いが満ちていきます。

断食祈祷とは、自分を空っぽにして、神様に満たしていただく恵みの時間なのです。

(今年の祈祷推進カードに、断食祈祷の実際についてわかりやすく紹介されています)



祈祷推進カードは
こちらから閲覧できます ▶



断食の中で与えられた平安

今年2月、私たちの教会で21日間の断食祈祷がありました。その頃、娘は股関節脱臼のため装具を装着していました。しかし、装具をしても股関節は不安定な状態で、不安な気持ちが大きくありました。そこで、娘の癒やしのために、より真剣に祈りたい! と思い、断食祈祷を始めました。



南紀キリスト教会員(和歌山県)
西谷 泉

祈る中で、神様がこれまで私の人生のさまざまな出来事を最も良いタイミングで導いてくれたことに気づきました。「神のなさることは、すべて時にかなって美しい」(伝道者の書 3:11 新改訳 2017) という御言葉が浮かび、私の人生に神様が与えてくれたたくさんの恵みに感謝しました。



感謝の祈りをしていると、心に大きな平安が与えられました。娘の病気の癒やしが今はまだ見えなくても、神様が最も良いタイミングで必ず癒やしてくださると信じることができました。その後、徐々に股関節が安定し、3月下旬にレントゲンで臼蓋きゅうがいが成長しているのが分かりました! 断食の祈りに主が応えて、癒やして下さったことに感謝します。

CHURCH VISIT
教会訪問

- MM33 の現場から -

けんぼく
兼牧

私たち夫婦の可能性と
シャロンキリスト教会、川尻キリスト教会の
二つの教会の可能性が広げられた



上田 努先生・上田 恵美子先生ご夫妻

熊本県八代市のシャロンキリスト教会（以下シャロン教会）と、熊本県熊本市の川尻キリスト教会（以下川尻教会）は、30km ほど離れており、車で 50 分ほどかかる場所にある。ご夫妻はシャロン教会を 2012 年 4 月から牧会しておられ、2025 年 4 月から川尻教会の兼牧を任じられた。今回は上田 努先生、恵美子先生に二つの教会でのお働きについてお話を伺った。

シャロン教会では定例集会として、日曜日午前の主日礼拝、水曜日晚の祈祷会、金曜日午後の聖書集会の三つが行われている。川尻教会の定例集会は二つ、日曜日午前の主日礼拝と木曜日午前の教会掃除と祈祷会だ。

現在、ご夫婦は合計 5 つの集会を分担しながら奉仕し、同時に行われる日曜礼拝は、シャロンと川尻にそれぞれ牧師夫妻が分かれて奉仕している。

“兼牧”についてご夫妻は、「二つの場所で宣教の働きができることに喜びを感じています」と受け止め、「私たち夫婦の可能性とシャロン、川尻教会の二つの教会の可能性が広げられた」と話された。さらに、神様がこれからどのような御業をなしてくださるのか期待して、祈りつつ奉仕していくことを願っているという。

シャロン教会では、月 2 回、地域の方々を対象とした健康体操教室を開催。未信者の方も多く参加し、教会のサイドドアとして用いられている。加えて、認知症カフェもスタート。さらに三浦綾子読書会も計画しているとのこと。

子ども伝道にも力を入れており、月 1 回のスマイルパーティー（子ども会）、隔週金曜日の小学生勉強会、中高生勉強会が行われ、その中で福音も語られている。毎週の日曜学校は、礼拝と並行して、信徒の方々が奉仕している。



川尻キリスト教会



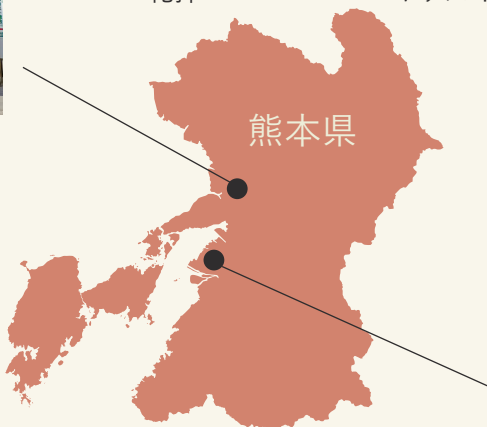
礼拝



キッズイースター



チャペルコンサート



熊本県

シャロンキリスト教会

健康体操教室



スマイルパーティー



礼拝



シャロン教会では、上田先生ご夫妻によると、信徒の方々に「誘う力」がついてきていると言う。友人や知人を本当によく教会に誘われるようになってきたとのこと。また、兼牧となった今、牧師だけでは担えない部分を信徒の方々が支えてくださっていると語る。

川尻教会では、毎週日曜日の日曜学校を、ご夫妻のどちらかが担当している。今年は、重荷を持つ子ども伝道の増強を祈り願い、計画中。

上田 努先生は、「勉強を教える」ことが自分の賜物だと語る。一方、恵美子先生の賜物は、「人と仲良くしてコミュニケーションが取れる」ことだそう。恵美子先生は、八代でも川尻でも近所付き合いやママ友と良好な関係を築き、その方々がお子さんたちを教会の行事へ送り出してくださっているとのこと。その信頼関係を通して、努先生の賜物である「勉強を教えること」が生かされている。

また、川尻キリスト教会では、信徒の方々が礼拝奉仕のほとんどを担われ、仕える姿勢で牧師先生ご夫妻を支えてくださっているのだそう。その姿を、上田先生ご夫妻はとても頼もしく感じている。

“兼牧”と聞くと、読者の中にもネガティブなイメージを持ちやすい働きではあるかもしれないが、牧師と教会の働きの可能性が主にあって広げられている様子が伺える。また、信徒の奉仕や伝道に対する意欲の向上、さらには牧師夫妻のそれぞれ違ったタラントの掛け合わせが相互の働きを活かし、教会に新しい風を送り込んでいるように感じられた。

兼牧が始まることで戸惑いや混乱が生じてもおかしくはない。しかし、シャロンキリスト教会と川尻キリスト教会のように、牧師夫妻だけではなく、教会員による協力体制がなされる中で、キリストを頭とした教会が有機的に建てあげられている姿に心からエールを送りたい。（取材・文：坂田 容子・神山 美由記）

- ナッシュビルツアーレポート -

NEXT GEN in Nashville



主はモーセに答えられた。「主の手は短いのだろうか。わたしのことばが実現するかどうかは、今わかる。」（民数記 11：23 新改訳第三版）

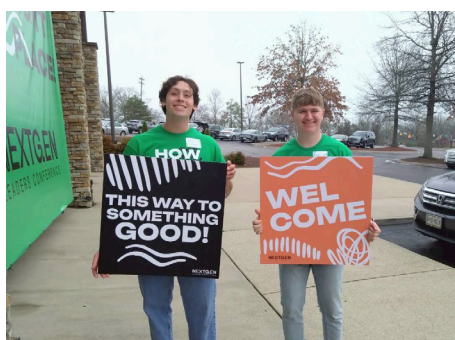
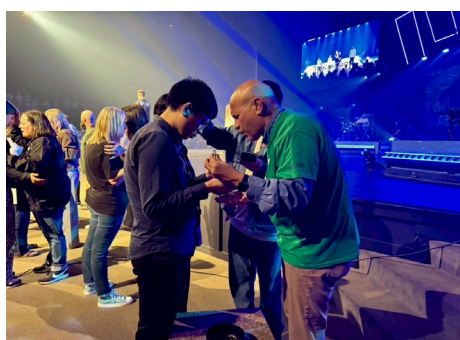
「夢なき者に理想なし、理想なき者に計画なし、計画なき者に実行なし、実行なき者に成功なし。故に、夢なき者に成功なし」とは、幕末の志士、吉田 松陰が松下村塾で若者たちに語った言葉として知られている。吉田 松陰と聖書との直接的な関わりは定かではないが、聖書の真理に通じるものを私は感じてやまない。これはあくまで私個人の感想である。

3月16～12日まで、アメリカ、テネシー州ナッシュビルで行われた全米ユースリーダーのカンファレンス（NEXT GEN）に、日本から団長の酒井 知愛^{ともあき}師をはじめ教職とユース含め総勢 12 名で参加させていただいた。一週間ほどの短い滞在ではあったが、多くの学びと恵みを受ける機会であった。





当たり前であるが日本の教会とは人数の規模、教会施設の大きさ、資金、かけているコストなど全てがまさに桁違いのスケールである。会場となった Cornerstone Church は、ショッピングモールか大学かと思間違えるほどの敷地面積、そして巨大な建物があり、キッズコーナーのスペースだけでも日本の教会の礼拝堂何倍分だろうかという広さである。また冷暖房完備のバスケットコート体育館、外には何千台もの駐車場、サッカー場そして広大な芝生広場と森まであるのだ。

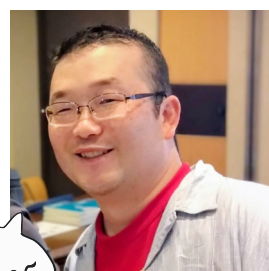


そしてそれらを適切に管理するための多くのスタッフ（おそらく有給であろう）とそれぞれの働きに従事する牧師が多数在籍している。ここまできると、もはや地域にとっての社会インフラと言っても過言ではない。地域にとって必要不可欠であり、大きな影響を与えているのを感じた。これはある意味で教会の夢と理想が具体的な形となったものではないだろうか。

最終日に今回のツアーの分かち合いの時があり、その時の参加者の声を少し紹介したい。「ただただ感謝！ 現地に来て、見て、体験することができたことは本当に素晴らしい恵みだった！ もっと多くの人に来て、体験して欲しい！」「具体的な教会の姿を見て、夢とビジョンが与えられた！ 私たちの教会も、こんな教会にしたいという思いと目標が与えられた！」「とにかく衝撃的だった、価値観が変わった！ 方法論ではなく偉大な神様に拠り頼むことが大事！ 言葉を越えた圧倒的な聖霊の臨在を感じた！ 聖霊の力をもっと体験したい！」という感想であった。



全国聖会のメッセージでも語られていたことであるが、「あきらめず、あせらず、あきず」に主の言葉が実現することを思い描き、祈りつつ、歩んでいこう！



青少年伝道部員
豊川基督教会（愛知県）
城市 篤

みんなの“声”届けます！

9年ぶりの対面開催となった全国聖会。

1,000人を超える方々が共に集い、賛美し、祈る中で、会場は神様の臨在に満たされました。

それぞれが与えられた恵み、心に残ったこと、そして新たな決意——。

広報室では、全国聖会に参加された方々の声を集めました。その一部をご紹介します。

何十年ぶりに全国聖会に
参加しました。
霊的に引き上げられました。

『祈りは神を変える
のではなく私を変える』
心にひびきました。

ネット配信で遠くて
見れるのもいいけど、
会場参加はやはり
かえがたいね！

叫んで、叫んで、叫んで！
祈って、祈って、祈る！

全国聖会はやっぱり
恵まれます！
リバイバルへの期待が
こみ上げてきました！

神様からのチャレンジに
ひるむことなく
挑み続けたい！祈りだ！！

新しいチャレンジを
いただきました。
ピンチこそチャンスととらえて
進んでいきます。

青年聖会でのアツイ賛美&
メッセージ最高！！

(取材・文: 渡辺 由美子)

編集後記

新しい機関誌「Tsumugu-つむぐー」はいかがでしたでしょうか。

長い間、教団の広報的機関誌として親しまれてきた「アッセンブリー誌」に代わる媒体を制作するという事は、広報室にとって決して簡単なことではありませんでした。その歴史と重みを思う時、何を受け継ぎ、これから何を届けていくべきかを、何度も話し合い、祈りながら準備を進めてきました。

けれど、「アッセンブリー誌」にもまた創刊号があり、多くの読者の皆さまに支えられ、愛されながら、その歴史が紡がれてきました。この「Tsumugu-つむぐー」もまた、皆さまと共に歩みながら、少しずつ愛される媒体へと成長していくことができれば幸いです。

創刊号の発行に至るまでには、さまざまな試行錯誤がありました。中でも、オリジナルキャラクター「つむくん」たちの制作は、室員それぞれが案を持ち寄り、コンペ形式で進められた印象深い取り組みの一つです。誌面の随所に登場する「つむくん」たちも、この「Tsumugu-つむぐー」と共に、皆さまに親しまれる存在となればうれしく思います。

これから「Tsumugu-つむぐー」が、世代を超えて恵みや思いを分かち合い、教団の歩みを共に紡いでいく媒体として用いられていくことを願っています。

(文: 渡辺 由美子)

広報室 機関誌チーム

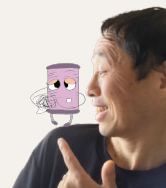


機関誌チーム長

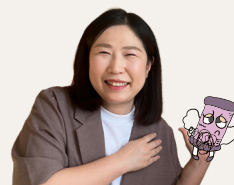
嘉手納アッセンブリー教会
神山 美由記



仙台神召基督教会
本田 基枝



希望キリスト教会
田中 清人



佐伯聖書キリスト教会
坂田 容子



教団事務職員
渡辺 由美子

■聖書 新改訳 ©2003 新日本聖書刊行会 ■聖書 新改訳 2017 ©2017 新日本聖書刊行会